令和5年度学校評価 計画

学校名	武雄市立武雄小学校
------------	------------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上・・・一人一台端末を活用した授業実践と学力の向上につながる授業改善を行う。家庭との連携を通して、家庭学習の更なる充実を目指す。 ・道徳教育の充実・・・「豊かな心を育てる教育の推進」を目指して、道徳の授業を含め、教育活動全般を通して育成する教育課程の編成が必要である。 ・特別支援教育・・・すべての教職員が研修を深め、児童の実態に即した対応力を身に付ける。引き続き、関係機関との連携を図る。 ・業務改善・働き方改革・・・それぞれの教職員が働き方に対する意識改革を行い、タイムマネジメントの能力の育成向上を目指す。
----------------------	---

2 学校教育目標	学ぶことは楽しいことだと実感し、夢や志をもち、意欲的に取り組む児童の育成
-----------------	--------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>【志】 夢いっぱい、志をもってがんばる子ども</p> <p>【知】 やる気いっぱい、進んで学ぶ子ども</p> <p>【徳】 元気いっぱい、優しい子ども</p> <p>【体】 元気いっぱい、たくましい子ども</p>
-------------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○『めあて』と『まとめ』、『振り返り』を通じて、理解したことを自覚したり、理解を深めたりすることができている」と回答した児童80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.1」を踏まえ、「めあて」と「まとめ」、「振り返り」を設定する。	指導方法改善担当(松永) 学力向上コーディネーター(桑原)
	○ICTを活用した教育の推進 ・1人1台端末を活用した授業改善	○教師のICT機器の利用率90%以上	・スキルアップ研修や、低中高特での情報共有の時間を設け、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現に向けた1人1台端末活用事例を増やし、実践に生かす。	研究主任(小林) 教育情報化推進リーダー(松田)
●心の教育	●○児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校行事や日頃の生活、道徳の授業を通して、児童の豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めていると回答した教師90%以上	・内容項目を確認して確実な授業の実施を行う。 ・教室の掲示コーナーに道徳の学習や学校行事等の足跡を残し、児童の心を育む環境づくりを定期的に行う。	道徳教育推進教員(福田) 前年度 " (今川)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校で安心して楽しく過ごしているという児童の意識を90%以上	・月に1回の「気になる子」報告会と、心のアンケートでいじめにつながる可能性がある事案の対応にあたる。 ・いじめ対策委員会において、具体的対応策を協議し職員全体で指導対応にあたる。 ・全教科を通して人権・同和教育を推進する。	人権・同和教育担当 (秀島・松田) 生徒指導主任(井手)
	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・「キャリア・パスポート」を活用し、学校生活の中でめあてを持ったり振り返りを行ったりして自己評価を行い、主体的に学びに向かう力ややり抜く力を育成する。 ・各種体験活動で、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを実践する。	特活主任(吉永) 各学級担任
●健康・体づくり	①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣の習慣化ができていない児童を85%以上 ②「健康に食事は大切である」と考える児童100%	①睡眠や朝食喫食、テレビ視聴やゲームの時間設定の啓発を行う。また、学校だよりや学年通信等で基本的な生活習慣の習慣化について定期的に啓発する。 ②各学年の指導目標を実現できるよう意識して指導する。	食育担当(浦川) 養護教諭(原)
	○体育的行事の充実 ・体育、健康、保健に係る教育の推進	○体力向上に関する児童一人一人の学びの充実を大切にしようとする教師85%以上	・日々の体育の授業を中心にして、スポーツフェスタなど体を動かすことの心地よさに触れさせる機会を設定し、体力向上の推進を図る。 ・計画的、定期的に体力向上に関する取り組みを実施し、学級指導に活用する。	保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守。個人の勤務超過時間の平均40時間以内が実施できた職員85%以上	・毎週金曜日に定期退職日を設け、定時退勤を呼び掛ける。 ・毎月「業務チェックシート」で、勤務時間の改善を図る。	教頭・事務長
	○働き方改革の本質の徹底	○行事や会議の削減・凝縮や、家庭・地域からの協力などにより、児童と向き合う時間が増えた教員85%以上	・行事や会議を効率的で効果的に削減・凝縮し、児童と向き合う時間を確保する。 ・家庭・地域に対し、教員の本務に専念できる環境作りへの協力・連携を依頼する。	教頭・事務長

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		
○特別支援教育の充実と拡散	○特別支援教育の充実 ・保護者や専門機関との連携	○児童との関係を大切に相談活動を充実させる。情報交換により児童理解ができたと回答した教師を80%にする。	・計画的、定期的に会議(支援会議、スマイル会議、スクールカウンセラーのカウンセリングの報告、巡回相談等)を実施し、児童の実態把握、関係機関との連携を協議し、支援体制を構築する。 ・全職員に対して児童理解に関する意識調査を行う。	特別支援教育部
◎防災教育の充実	○防災教育の充実	①子どもの生活アンケートの防災関連項目について、「わかる」「できる」「知っている」が80%以上 ②水難危険箇所等の防災上重要な箇所の職員による把握が100% ③大雨や台風等における児童の下校体制の充実	・月に1回の緊急放送訓練の実施(児童向け) ・全校朝会での防災に関する説話(児童向け) ・佐賀豪雨に関する写真などの掲示 ・危険箇所の把握に関する研修・実地確認(職員向け) ・大雨や台風等における児童の下校体制のマニュアル化	生活部
○地域連携による共育	○民間の良さを取り込んだ「花まるタイム」の推進 ○地域とのつながりを感じ、郷土を愛する心の育成	○地域の方や官民一体型学校のよさを活用して、児童が生き生きと学習できる環境を構築する。地域の方のゲストティーチャー活用、花まるタイムの取り組みについて肯定的な回答をする児童と地域の方々80%以上	・花まるタイムの年間計画に基づいた計画的な実施。 ・地域の方と児童が交流している姿をHPや掲示板を使って取り上げ、地域の方の花まるタイムへの意欲を上げる。 ・地域の方をGT活用(地域との連携)	松永、諸岡、教頭